



福岡医発第 3362 号（地）
令和 2 年 3 月 24 日

各 医 師 会 長 殿

福 岡 県 医 師 会
会長 松 田 峻一良
(公 印 省 略)

本県における新型コロナウイルス感染症患者の発生について（第 6 報）

令和 2 年 3 月 23 日、本県で 6 例目となる新型コロナウイルス感染症の陽性患者が確認された旨、別添のとおり北九州市よりプレスリリースされました。

本プレスリリースでは、当該患者は北九州市職員の男性で海外渡航歴はないとしておりますが、その他の行動歴及び濃厚接触者については調査中とのことです。

つきましては、貴会におかれましても本件についてご了知の上、貴会会員への周知方よろしくお願いいたします。

小郡三井医師会より

感染症対策担当理事 田中泰之
会長 島田昇二郎

新型コロナウイルス感染症の発生について

市内において、2例目となる新型コロナウイルス感染症の患者を確認しましたので、北九州市感染症公表要領に基づきお知らせいたします。

- 1 概要 令和2年3月23日(月)、市内C医療機関から北九州市保健所に新型コロナウイルス感染症の疑い患者について相談があり、北九州市保健環境研究所にて検査を実施したところ陽性と判明した。
- 2 患者情報
 - (1) 年齢、性別等 40歳代、男性、小倉北区在住
 - (2) 職業 北九州市職員(小倉南区役所 国保年金課)
3月17日(火)まで勤務(窓口業務なし)
3月18日(水)以降は勤務なし。
 - (3) その他 海外渡航歴はない。
新型コロナウイルス感染症患者との明確な接触歴なし。
- 3 経過
 - 3月17日(火) 午後から咽頭痛、咳あり。(窓口業務なし)
 - 3月18日(水) 発熱(37.3℃)あり、市内A医療機関を受診。
 - 3月19日(木) 市内B医療機関を受診。インフルエンザ陰性。
 - 3月20日(金) 発熱(37℃～38℃台)、たまに咳あり。
 - 3月21日(土)～ 発熱(38℃台)と解熱を繰り返す。
 - 3月23日(月) 起床時、発熱(37.6℃)あり、市内C医療機関を受診。
市内D医療機関で検体採取。胸部CTにて肺炎像あり。
本市保健環境研究所におけるPCR検査の結果、陽性が判明。
- 4 現在の状況 県内の感染症指定医療機関に入院(状態は安定している。)
- 5 行政対応 患者に対する健康調査(行動歴、接触歴を含む)を実施中。
- 6 患者行動歴
 - ・海外渡航歴はない。
 - ・行動歴は調査中。
- 7 濃厚接触者
 - ・独居。
 - ・その他の濃厚接触者については、調査中。
- 8 その他 患者等の個人情報については、プライバシー保護の観点から、提供資料の範囲内にさせていただきます。ご理解の上、特段のご配慮をお願いいたします。詳細が分かり次第、続報にてご報告いたします。
- 9 新型コロナウイルス感染症について
別添参照

《新型コロナウイルス感染症について》

➤新型コロナウイルス感染症とは

新型コロナウイルス感染症については、2019年12月以降、新型コロナウイルス感染症の患者が複数報告され、中国国内で感染が拡大しており、2020年1月16日以降、日本においても患者の報告が増えています。国は、水際での対策を講じてきていますが、国内の複数地域で、感染経路が明らかではない患者が散発的に発生しており、一部地域には小規模の患者クラスター（集団）が把握されている状態になっています。

➤症状や治療

国内の事例では、発熱やのどの痛み、咳が長引くこと（1週間前後）が多く、強いだるさ（倦怠感）を訴える方が多いようです。感染から発症までの潜伏期間は1日から12.5日（多くは5日から6日）といわれています。

このウイルスに特に有効な抗ウイルス薬ではなく、対症療法を行います。

軽症で、治癒する方も多いですが、よる肺炎が重篤化した場合は、人工呼吸器など集中治療を要し、季節性インフルエンザよりも入院期間が長くなる事例が報告されています。高齢者や基礎疾患（糖尿病、心不全、呼吸器疾患など）を有する方では、重症化するリスクが高いと考えられています。

➤コロナウイルスとは

発熱や上気道症状を引き起こすウイルスで、人に感染するものは6種類あることが分かっています。そのうちの2つは、中東呼吸器症候群（MERS）や重症急性呼吸器症候群（SARS）などの、重症化傾向のある疾患の原因ウイルスが含まれています。残り4種類のウイルスは、一般の風邪の原因の10～15%（流行期は35%）の占めます。

➤感染経路

「飛沫感染」と「接触感染」の2つが考えられます。

（1）飛沫感染

感染者の飛沫（くしゃみ、咳、つば など）と一緒にウイルスが放出され、他者がそのウイルスを口や鼻から吸い込んで感染します。

（2）接触感染

感染者がくしゃみや咳を手で押さえた後、その手で周りの物に触れるとウイルスが付きます。他者がその物を触るとウイルスが手に付着し、その手で口や鼻を触って粘膜から感染します。

➤感染防止のポイント

- ・風邪や季節性インフルエンザ対策と同様に、「手洗い」などの通常の感染症対策やマスク着用などの「咳エチケット」に努めましょう。
- ・特に、基礎疾患がある方や高齢の方は、できるだけ人混みの多い場所を避けてください。
- ・発熱等の風邪症状が見られるときは、学校や会社を休みましょう。